

図書館のホームページは
<http://lib.jichi.ac.jp>

目 次

エッセイ…………… 1～2

和雑誌特集記事…………… 3～8

最近のトピックス…………… 2

自治医大を巡る最近の話題

学 長 高 久 史 磨

2006年の自治医大の最大の話題は、とちぎ子ども医療センターが開所し、診療活動が始まった事である。近年我が国では小児医療の問題が大きく取り上げられているが、その事に関連して小児医療センターの設置の必要性が小児科医の方々から強く述べられており、私もその意見に賛成である。しかし独立した小児医療センターの運営が経済的に困難な事は周知の事実であり、総合病院に併設した形の小児医療センターが好ましいと考えられている。今回のとちぎ子ども医療センターは大学病院に併設の形で県が小児医療センターを作り、県の援助を受けながら大学が主体となって運営するという、我が国では初めての形の小児医療センターである。私はこのような形の小児医療センターが医学生の教育、小児科医の育成、小児医療の充実にとって最も理想的な小児センターであると考えている。恐らく他の大学、県もとちぎ子ども医療センターの今後を見守っているに違いない。私どももその事を十分に自覚し、とちぎ子ども医療センターが発展する様大学全体として努力する必要がある事を改めて強調したい。

2006年の医療界で大きな問題になった事の一つに医師の地域偏在と診療科の偏在が挙げられる。厚生労働省の医師の適正数に関する委員会では、我が国の医師の数は全体としては十分であり、将来的には過剰になると結論している。しかし現在の医師の地域偏在が動かし難い現実である事を踏まえ、住民数に対して医師

の数が少ない10の県の医科大学に対して2008年から10年間を限度として10名の学生定員数の増加を行う事が総務省、文部科学省、厚生労働省の3省連絡会議で決まった。この10大学に自治医科大学が加わり、合計11の大学の定員増が認められた。従来自治医大は各県からの3名入学の要望が強く、止むを得ず北海道、東北地方、離島のある県等を中心に3名県を増やし、2006年には106名を入学させた。しかし100名の学生定員を超えると、定員違反と言う事で、補助金が減らされてきた。今回2008年から定員110名になった事から、110名までは補助金を減らされる事なく定員を増加する事が出来るようになった。開学当初から暫くの間110名の入学を認めていたので、今回の学生定員の増加に対して施設的には対応できると考えられる。しかし最近の学生並びに初期研修医に対する教育への負担の著しい増加を考えると、教員の定数の増加も考えなければならないであろう。尚、医師の地域偏在が社会的な課題となると同時に、地域医療に対する自治医大、その卒業生の今迄の貢献が改めて注目されるようになった。自治医大卒業生の活躍を考えるといささか遅すぎる感が無きにしも非ずであるが、自治医大の今迄の実績が改めて認識されてきた事



を率直に喜びたい。

もう一つの話は、初期臨床研修に関してである。医科大学卒業生の大学病院離れが大学病院の運営上でなく、地域医療にも大きな影響を与えている事は周知の事実であるが、新しい卒後研修制度が始まって3年目を迎える2007年の春になって漸く大学で研修をする卒業生のパーセントの下げが止まり、少し増加する傾向が見えてきた。自治医大も70名の定員の全てが充足され、100%となった。研修医の募集定員が100%満た

されたのは東京大学、京都大学、九州大学、慶應義塾大学等、幾つかの医科大学だけであるが、卒業生の残留が0%で充足率が100%なのは自治医科大学附属病院だけである。改めて関係の方々のご尽力に感謝の意を表したい。2007年の4月からはUCLAのアランレフォア教授が研修医の教育に当たる事になり、自治医科大学の初期臨床研修が更に高く評価される様になる事を期待したい。



最近のトピックス

- | | | | | | |
|--------|----|---------------|-----------------|----------------|--------------------------|
| 11月14日 | 下野 | 医師確保へ協力要請 | 知事、県内2医大学長に | きょうから | とちぎ地域医療 |
| 15日 | 朝日 | NIE教育に新聞を | 世代超えて新聞囲む | 学校を飛び出したNIE | |
| 16日 | 下野 | 上都賀病院労使紛争 | 看護師・医師不足、厳しい経営… | 県内病院「課題」の縮図 | |
| 17日 | 下野 | 「感染が死期早めた」 | 自治医大セレウス菌院内感染 | 確認後5日後 | 女児死亡
専門家、カルテ分析で指摘 |
| 20日 | 東京 | 派遣は暫定措置 | 残る不安 | 常勤産科医“復活” | 隠岐の島町 |
| 21日 | 下野 | 中核病院 | 今後の見通し | 医師不足解消し移転新築目指す | 大田原赤十字病院 |
| 22日 | 毎日 | 異常行動との関係「未解明」 | タフミル多用ご注意 | インフルエンザの季節控え | |
| | 朝日 | コンタクト診療所 | 水増し検査「甘い」 | 医師証言 | 指導後も続ける |
| 27日 | 産経 | 呼吸器取り外し独自基準 | 秋田赤十字病院 | 脳出血など対象 | |
| 28日 | 下野 | 獨協医大 | 看護学部開設へ | 専門学校も一転存続 | 看護師不足の緩和に期待 |
| 29日 | 読売 | ぜんそく全患者に医療費 | 東京大気汚染訴訟 | 都、和解へ救済案 | |
| 30日 | 下野 | 運営難の佐野市民病院 | 内科医3人が退職へ | 常勤医8人、対応に苦慮 | |
| 12月1日 | 日経 | 医療費合理化 | 先送り | 社会保障抑制で厚労省 | 雇用保険 最大で200億円削減 |
| 4日 | 毎日 | 関心高く整備進む | 緩和ケア | 欧州 | 近年急増 200施設に 知識普及、医師養成に課題 |
| 5日 | 日経 | 「医療費減額通知徹底を」 | 市町村国保健保組合 | 厚労省が要請へ | |
| 6日 | 朝日 | 看護師 | 在宅医療離れ | 訪問拠点辞め大病院へ | 診療報酬改定 裏目に |
| 7日 | 朝日 | 急増 | 医療費未払い | 支払い肩代わり請求へ | 病院団体 国保・健保側に |
| 8日 | 東京 | 緩和ケア治療一体に | 英国の最先端ホスピス | 痛みから完全解放目指す | |

A * A群溶連菌感染症	A群溶連菌感染症	小児科	47 (12) 2006
Adipocytokines	アディポカイン	医のあゆみ	219 (6) 2006
* アディポカイン	アディポカイン	医のあゆみ	219 (6) 2006
エイジング	エイジングと生殖医療	臨婦産	60 (11) 2006
アレルギー	アレルギー外来の現状	眼科	48 (12) 2006
B バセドウ病	バセドウ病とその周辺疾患 -基礎・臨床研究の最新動向-	日臨	64 (12) 2006
* バイオサイエンス	メタボロミクス 包括的代謝物質解析の医学・ バイオサイエンスへの応用	細胞工学	25 (12) 2006
* 病理	末梢神経、筋疾患の病理のみかた	病理と臨	24 (11) 2006
病理学	末梢神経、筋疾患の病理のみかた	病理と臨	24 (11) 2006
* 病理診断	腎病理診断標準化 -その現状と将来への展望	医のあゆみ	219 (8) 2006
C 痴呆	解決できる! 認知症患者のケアで困っていること	エキスパートナース	22 (15) 2006
* 中高年女性	EBMからNBMへ -中高年女性クライアントに対する説明	産婦の実際	55 (12) 2006
* クリニカルパス	新・救急医療とクリニカルパス	救急医	30 (12) 2006
クリティカルケア	Critical Care Nutrition	ICUとCCU	30 (9) 2006
クリティカルパス	新・救急医療とクリニカルパス	救急医	30 (12) 2006
D 大腸	特集I 大腸良性腫瘍性病変の治療とサーベイランスの標準化	消化器科	43 (4) 2006
	大腸癌診療と放射線医療	臨放	51 (12) 2006
大腸腫瘍	大腸癌診療と放射線医療	臨放	51 (12) 2006
大動脈瘤	大動脈瘤・大動脈解離	最新医	別冊 2006
* 読影	読影レポートのエッセンス(2) -common disease診断の要点と表現のコツ-	画像診断	26 (12) 2006
E EBM	EBMからNBMへ -中高年女性クライアントに対する説明	産婦の実際	55 (12) 2006
栄養	Critical Care Nutrition	ICUとCCU	30 (9) 2006
栄養管理	NAFLDとNASHの治療と栄養管理	臨栄	109 (6) 2006
嚥下	早期離床のための摂食・嚥下リハビリテーション	ブレインナーシング	22 (12) 2006
炎症	急性冠症候群と炎症	心臓	38 (11) 2006
* ESD	早期胃癌に対するESDと腹腔鏡下手術の接点	胃と腸	41 (11) 2006
F 腹腔鏡外科的処置	早期胃癌に対するESDと腹腔鏡下手術の接点	胃と腸	41 (11) 2006
浮腫	浮腫を診る	総合臨	55 (11) 2006
G 咳嗽	咳嗽 基本的事項から臨床まで	Mod Physician	26 (11) 2006
	咳嗽診療のポイント	医事新報	4309 2006
癌看護	がん患者の口腔トラブルとケア	看技	52 (14) 2006
顔面外傷	顔面・四肢外傷治療のABC	形成外科	49 (増) 2006
顔面損傷	顔面・四肢外傷治療のABC	形成外科	49 (増) 2006
画像診断	リウマチ性疾患の画像診断の進歩	リウマチ科	36 (4) 2006
	麻酔科領域における画像診断	麻酔	55 (11) 2006
外科手術	手術のタイミングとポイント	臨眼	60 (11) 2006
	急性胆道炎の処置と手術 ~診療ガイドラインに基づく戦略~	手術	60 (12) 2006
	耳鼻咽喉科専門研修をはじめの医師へ -手術手技とコツ	耳鼻・頭頸外科	78 (13) 2006
* GERD	難治性GERDへの対応	日消病会誌	103 (11) 2006

G	ガイドライン	特集I 急性期脳梗塞のガイドライン	脳と神経	58 (11) 2006
H	肺癌	肺癌治療 - 新たな治療体系確立への展開 -	最新医	61 (11) 2006
	* 白質脳症	白質脳症update	神経内科	65 (5) 2006
	* 発癌	新たな治療標的につながる発癌と転移・浸潤のメカニズム	実験医	24 (19) 2006
	皮膚病	聞き慣れない病名 - 2006 -	皮膚診療	28 (11) 2006
		聞き慣れない症候群	皮膚診療	28 (12) 2006
	皮膚疾患	聞き慣れない病名 - 2006 -	皮膚診療	28 (11) 2006
		聞き慣れない症候群	皮膚診療	28 (12) 2006
	ヒトパピローマウイルス	HPV - 関連するがんの予防に向けての展開 -	細胞	38 (13) 2006
	保健と福祉計画	保健福祉に期待するもの	日保健福祉会誌	13 (1) 2006
	ホルモン	性差医学 - 性差の背景を探る：遺伝子・ホルモン・環境	医のあゆみ	219 (5) 2006
	放射線療法	大腸癌診療と放射線医療	臨放	51 (12) 2006
I	胃癌	早期胃癌に対するESDと腹腔鏡下手術の接点	胃と腸	41 (11) 2006
		胃がん ~最新の治療と看護 (2) ~	がん看護	11 (7) 2006
	胃食道逆流	難治性GERDへの対応	日消病会誌	103 (11) 2006
	* ICP	ICPのためのウイルス病学	臨と微生物	33 (増) 2006
	遺伝子	性差医学 - 性差の背景を探る：遺伝子・ホルモン・環境	医のあゆみ	219 (5) 2006
	育児	こどもの健康と福祉のために - 子育て支援の実践を通して -	日保健福祉会誌	13 (1) 2006
	インフルエンザ	今季は「新型」にも備えろ！ インフルエンザ対策2.0	日経メディカル	468 2006
	院内感染	院内感染への対応	小児診療	69 (12) 2006
	インターベンショナルラジオロジー	特集II 胆道癌に対するIVRと内視鏡治療	消化器科	43 (4) 2006
J	耳鼻咽喉疾患	小児の耳鼻咽喉頭・頭頸部疾患 - 診断と治療	小児外科	38 (11) 2006
		小児科医が知りたい・聞きたい『子どもの耳・鼻・のどQ&A』	小児臨床	59 (12) 2006
		耳鼻咽喉科専門研修をはじめ医師へ - 手術手技とコツ	耳鼻・頭頸外科	78 (13) 2006
	児童	こどもの健康と福祉のために - 子育て支援の実践を通して -	日保健福祉会誌	13 (1) 2006
		小児の股関節疾患 看護ケアに必要な知識と実際	小児看護	29 (13) 2006
		小児科医が知りたい・聞きたい『子どもの耳・鼻・のどQ&A』	小児臨床	59 (12) 2006
		小児の耳鼻咽喉頭・頭頸部疾患 - 診断と治療	小児外科	38 (11) 2006
	磁気刺激	磁気刺激	臨脳波	48 (11) 2006
	腎不全	メタボリックシンドロームと腎不全	臨透析	22 (12) 2006
	腎臓	腎病理診断標準化 - その現状と将来への展望	医のあゆみ	219 (8) 2006
	腎臓移植	腎移植 - 質の時代へ	腎と透析	61 (4) 2006
	女性	女性とメタボリックシンドローム	産婦治療	93 (5) 2006
	術後合併症	消化器外科術後合併症の治療戦略	臨外	61 (13) 2006
		- 私たちはこのように治療している		
	縦隔疾患	縦隔疾患に対する外科的アプローチ	日外会誌	107 (6) 2006
K	過敏症	アレルギー外来の現状	眼科	48 (12) 2006
	* 下部尿路機能障害	下部尿路機能障害 - プライマリ・ケアのサポート -	薬局	57 (11) 2006
	解離性動脈瘤	大動脈瘤・大動脈解離	最新医	別冊 2006
	肝炎非アルコール性脂肪性	NAFLDとNASHの治療と栄養管理	臨栄	109 (6) 2006
	看護	小児の股関節疾患 看護ケアに必要な知識と実際	小児看護	29 (13) 2006
	患者ケアチーム	チーム医療で進める癌治療	癌と化療	33 (11) 2006
	環境	性差医学 - 性差の背景を探る：遺伝子・ホルモン・環境	医のあゆみ	219 (5) 2006

感染予防管理者	ICPのためのウイルス病学	臨と微生物	33 (増) 2006
感染症予防	乳幼児の感染症対策 小児集団生活施設における対応	臨と微生物	33 (6) 2006
間質性肺炎	間質性肺炎 遺伝子解析による病態解明への期待	治療学	40 (11) 2006
加齢	エイジングと生殖医療	臨婦産	60 (11) 2006
形成外科	周産期の整形外科・形成外科	周産期医	36 (11) 2006
血管	急速進展する血管研究	実験医	24 (18) 2006
血管疾患	最新 血管疾患の診断・治療	外科	68 (11) 2006
健康	こどもの健康と福祉のためにー子育て支援の実践を通してー	日保健福祉会誌	13 (1) 2006
血小板凝集阻害薬	抗血小板療法ーアテローム血栓症を いかに予防、治療するか?ー	Heart View	10 (13) 2006
気管支喘息	最新の気管支喘息治療	臨と研	83 (11) 2006
	気管支喘息:コンセンサスが得られている治療法を中心に	小児内科	38 (11) 2006
筋疾患	末梢神経、筋疾患の病理のみかた	病理と臨	24 (11) 2006
* 股関節疾患	小児の股関節疾患 看護ケアに必要な知識と実際	小児看護	29 (13) 2006
子供	こどもの健康と福祉のためにー子育て支援の実践を通してー 小児科医が知りたい・聞きたい『子どもの耳・鼻・のどQ&A』	日保健福祉会誌 小児臨床	13 (1) 2006 59 (12) 2006
呼吸器疾患	呼吸器疾患におけるプロテオミクス解析の現状と将来	呼吸と循環	54 (12) 2006
骨折	頬骨骨折の治療ー最小侵襲手術の観点から	形成外科	49 (11) 2006
* 骨代謝疾患	最近のリン代謝異常の展開と骨代謝疾患	整・災外	49 (12) 2006
抗不安薬	抗不安薬の現在	臨精薬理	9 (12) 2006
高血圧	高血圧に対する運動療法の実践	臨スポーツ医	23 (12) 2006
* 抗菌化学療法	抗菌化学療法	日内会誌	95 (11) 2006
口腔衛生	がん患者の口腔トラブルとケア	看技	52 (14) 2006
* 高齢者	特集Ⅱ 高齢者喘息の特徴と対策	臨免疫・アレルギー科	46 (4) 2006
* 抗血小板療法	抗血小板療法ーアテローム血栓症をいかに 予防、治療するか?ー	Heart View	10 (13) 2006
頬骨	頬骨骨折の治療ー最小侵襲手術の観点から	形成外科	49 (11) 2006
救急医学	新・救急医療とクリニカルパス	救急医	30 (12) 2006
救急医療	新・救急医療とクリニカルパス	救急医	30 (12) 2006
救命救急診療	Critical Care Nutrition	ICUとCCU	30 (9) 2006
* 急性冠症候群	急性冠症候群と炎症	心臓	38 (11) 2006
急性冠動脈症候群	急性冠症候群と炎症	心臓	38 (11) 2006
L ラテックスアレルギー	ラテックスアレルギーUpdate	アレルギーの臨	26 (13) 2006
M 末梢神経	末梢神経、筋疾患の病理のみかた	病理と臨	24 (11) 2006
麻酔学	麻酔科領域における画像診断	麻酔	55 (11) 2006
滅菌法	洗浄・消毒・滅菌における最近の話題	医科器械学	76 (11) 2006
* メタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームREVISIT 女性とメタボリックシンドローム メタボリックシンドロームと腎不全	医のあゆみ 産婦治療 臨透析	別冊 2006 93 (5) 2006 22 (12) 2006
* メタボロミクス	メタボロミクス 包括的代謝物質解析の医学・ バイオサイエンスへの応用	細胞工学	25 (12) 2006
メタボノミクス	メタボロミクス 包括的代謝物質解析の医学・ バイオサイエンスへの応用	細胞工学	25 (12) 2006

M * 毛嚢系腫瘍	毛嚢系腫瘍	皮膚臨床	48 (12) 2006
N * NAFLD	NAFLDとNASHの治療と栄養管理	臨栄	109 (6) 2006
内科学	内科診療最前線2007 -この1年の動向を踏まえて-	内科	98 (6) 2006
* 内視鏡治療	特集II 胆道癌に対するIVRと内視鏡治療	消化器科	43 (4) 2006
内視鏡法	特集II 胆道癌に対するIVRと内視鏡治療	消化器科	43 (4) 2006
内視鏡の粘膜下層剥離術	早期胃癌に対するESDと腹腔鏡下手術の接点	胃と腸	41 (11) 2006
Narrative-Based Medicine	EBMからNBMへ -中高年女性クライアントに対する説明	産婦の実際	55 (12) 2006
* NASH	NAFLDとNASHの治療と栄養管理	臨栄	109 (6) 2006
* 認知症	解決できる! 認知症患者のケアで困っていること	エキスパートナース	22 (15) 2006
脳梗塞	特集I 急性期脳梗塞のガイドライン	脳と神経	58 (11) 2006
脳卒中発作	特集II Cryptogenic Stroke (潜因性脳卒中)	脳と神経	58 (11) 2006
	インターベンション時代の脳卒中	日臨	(増) 2006
乳癌	乳癌 最新の治療	Pharm Med	24 (11) 2006
* 乳腺良性疾患	乳腺良性疾患アトラス -悪性腫瘍との鑑別のポイント-	外科治療	95 (5) 2006
乳幼児	乳幼児の感染症対策 小児集団生活施設における対応	臨と微生物	33 (6) 2006
P プライマリケア	下部尿路機能障害 -プライマリ・ケアのサポート-	薬局	57 (11) 2006
プライマリーヘルスケア	下部尿路機能障害 -プライマリ・ケアのサポート-	薬局	57 (11) 2006
* プロテオミクス解析	呼吸器疾患におけるプロテオミクス解析の現状と将来	呼吸と循環	54 (12) 2006
R リハビリテーション	早期離床のための摂食・嚥下リハビリテーション	ブレインナーシング	22 (12) 2006
リウマチ性疾患	リウマチ性疾患の画像診断の進歩	リウマチ科	36 (4) 2006
りん代謝異常	最近のリン代謝異常の展開と骨代謝疾患	整・災外	49 (12) 2006
臨床検査	海外旅行と臨床検査	臨検	50 (11) 2006
	腎病理診断標準化 -その現状と将来への展望	医のあゆみ	219 (8) 2006
老人	特集II 高齢者喘息の特徴と対策	臨免疫・アレルギー科	46 (4) 2006
老化	老化の病理	病理と臨	24 (12) 2006
老年人	特集II 高齢者喘息の特徴と対策	臨免疫・アレルギー科	46 (4) 2006
S 産婦人科学	産婦人科でのスクリーニングの実際	産婦の実際	55 (11) 2006
産婦人科診断技術	診療上のcontroversy-こんな時どうする-	産婦の世界	58 (11) 2006
* スクリーニング	産婦人科でのスクリーニングの実際	産婦の実際	55 (11) 2006
生物学	メタボロミクス 包括的代謝物質解析の医学・バイオサイエンスへの応用	細胞工学	25 (12) 2006
整形外科	腰痛に対するスポーツ整形外科的アプローチ -スポーツ復帰のために治療の実際	臨スポーツ医	23 (11) 2006
	周産期の整形外科・形成外科	周産期医	36 (11) 2006
生理的血管新生	血管新生と創傷治癒	医のあゆみ	219 (7) 2006
性差	性差医学 -性差の背景を探る: 遺伝子・ホルモン・環境	医のあゆみ	219 (5) 2006
生殖医学	エイジングと生殖医療	臨婦産	60 (11) 2006
咳	咳嗽 基本的事項から臨床まで	Mod Physician	26 (11) 2006
	咳嗽診療のポイント	医事新報	4309 2006
* 赤血球系疾患	赤血球系疾患をめぐる最近の進歩	血腫瘍	53 (5) 2006
繊維化	消化器における繊維化研究の新しい動向 (2) -膵繊維化-	医と薬学	56 (4) 2006
	膵線維化機序の解明と治療への展望	胆と膵	27 (10) 2006
繊維症	消化器における繊維化研究の新しい動向 (2) -膵繊維化-	医と薬学	56 (4) 2006

繊維症	膵線維化機序の解明と治療への展望	胆と膵	27 (10) 2006
洗浄	洗浄・消毒・滅菌における最近の話題	医科器械学	76 (11) 2006
摂食	早期離床のための摂食・嚥下リハビリテーション	ブレインナーシング	22 (12) 2006
*心不全	心不全診療の現状と未来	進歩する心臓研	16 (2) 2006
*浸潤	新たな治療標的につながる発癌と転移・浸潤のメカニズム	実験医	24 (19) 2006
神経ブロック	神経ブロック - わかりやすい手技 -	ペインクリニック	27 (別冊秋号) 2006
心身症	女性疾患と心身症	産と婦	73 (12) 2006
*侵襲手術	頬骨骨折の治療 - 最小侵襲手術の観点から	形成外科	49 (11) 2006
施設収容児	乳幼児の感染症対策 小児集団生活施設における対応	臨と微生物	33 (6) 2006
*四肢外傷	顔面・四肢外傷治療のABC	形成外科	49 (増) 2006
四肢疾患	顔面・四肢外傷治療のABC	形成外科	49 (増) 2006
消毒	洗浄・消毒・滅菌における最近の話題	医科器械学	76 (11) 2006
消化器外科処置	消化器外科術後合併症の治療戦略 - 私たちはこのように治療している	臨外	61 (13) 2006
消化器系	消化器における繊維化研究の新しい動向 (2) - 膵繊維化 -	医と薬学	56 (4) 2006
小児	小児の股関節疾患 看護ケアに必要な知識と実際	小児看護	29 (13) 2006
	小児の耳鼻咽喉頭・頭頸部疾患 - 診断と治療	小児外科	38 (11) 2006
小児外科	成人期に達した小児外科 術後症例の諸問題	小児外科	38 (10) 2006
小児科学	小児科医が知りたい・聞きたい『子どもの耳・鼻・のどQ&A』	小児臨床	59 (12) 2006
*小児喘息	特集II 小児喘息の診断と治療	臨免疫・アレルギー科	46 (5) 2006
*小児内分泌学	小児内分泌学の進歩2006	ホルモンと臨	54 (11) 2006
集団検診	産婦人科でのスクリーニングの実際	産婦の実際	55 (11) 2006
*周産期	周産期の整形外科・形成外科	周産期医	36 (11) 2006
周産期学	周産期の整形外科・形成外科	周産期医	36 (11) 2006
	一般小児科医にも必要な周産期の知識	小児科	47 (11) 2006
周産期医学	周産期の整形外科・形成外科	周産期医	36 (11) 2006
腫瘍過程	新たな治療標的につながる発癌と転移・浸潤のメカニズム	実験医	24 (19) 2006
スキンケア	わかる、できるスキンケア スキントラブル絶滅宣言	月刊ナーシング	26 (14) 2006
早期離床	早期離床のための摂食・嚥下リハビリテーション	ブレインナーシング	22 (12) 2006
創傷治療	血管新生と創傷治療	医のあゆみ	219 (7) 2006
スポーツ医学	腰痛に対するスポーツ整形外科的アプローチ - スポーツ復帰のために治療の実際	臨スポーツ医	23 (11) 2006
膵炎	慢性膵炎 - 今日の進歩	肝・胆・膵	53 (4) 2006
	急性膵炎の治療	消外	29 (12) 2006
*遂行機能	遂行機能とその障害	臨精医	35 (11) 2006
膵臓	消化器における繊維化研究の新しい動向 (2) - 膵繊維化 -	医と薬学	56 (4) 2006
	膵線維化機序の解明と治療への展望	胆と膵	27 (10) 2006
サバイランス、疫学と成果プログラム	特集I 大腸良性腫瘍性病変の治療とサーバイランスの標準化	消化器科	43 (4) 2006
Syndrome X, Metabolic	メタボリックシンドロームREVISIT	医のあゆみ	別冊 2006
	女性とメタボリックシンドローム	産婦治療	93 (5) 2006
	メタボリックシンドロームと腎不全	臨透析	22 (12) 2006
T T細胞	特集I レギュラーT細胞をめぐる	臨免疫・アレルギー科	46 (4) 2006
	特集I T細胞の分化をめぐる	臨免疫・アレルギー科	46 (5) 2006

T 胆道癌	特集Ⅱ 胆道癌に対するIVRと内視鏡治療	消化器科	43 (4) 2006
	胆道炎	急性胆道炎の処置と手術 ~診療ガイドラインに基づく戦略~	手術 60 (12) 2006
* チーム医療	チーム医療で進める癌治療	癌と化療	33 (11) 2006
	転移	新たな治療標的につながる発癌と転移・浸潤のメカニズム	実験医 24 (19) 2006
* 頭頸部疾患	小児の耳鼻咽喉頭・頭頸部疾患 - 診断と治療	小児外科	38 (11) 2006
* トリプレットリポート病	トリプレットリポート病 UPDATE	医のあゆみ	219 (4) 2006
U 鬱血性心不全	心不全診療の現状と未来	進歩する心臓研	16 (2) 2006
	運動療法	高血圧に対する運動療法の実際	臨スポーツ医 23 (12) 2006
V ウイルス学	ICPのためのウイルス病学	臨と微生物	33 (増) 2006
Y 薬物療法	ここが知りたい-癌薬物療法	臨泌	60 (12) 2006
	* 薬剤性肺障害	日本における薬剤性肺障害	日胸臨 65 (11) 2006
腰痛	腰痛に対するスポーツ整形外科的アプローチ - スポーツ復帰のために治療の実際	臨スポーツ医	23 (11) 2006
輸血	輸血製剤の適正使用のために - 輸血検査、輸血管理はどのように行うべきか	Med Technol	34 (11) 2006
Z 在宅医療	在宅医療の現状と課題	日医師会誌	135 (8) 2006
	喘息	特集Ⅱ 高齢者喘息の特徴と対策 最新の気管支喘息治療	臨免疫・アレルギー科 46 (4) 2006 臨と研 83 (11) 2006
頭痛	気管支喘息：コンセンサスが得られている治療法を中心に 頭痛治療の疑問を解決する	小児内科 medicina	38 (11) 2006 43 (11) 2006



発行 自治医科大学図書館

☎329-0431 栃木県下野市薬師寺3311-160 ☎ダイヤルイン:0285(58)7059

印刷 (株)松井ピ・テ・オ・印刷